

緑のセンターだより



No.168

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター（相談所）
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel: 0166-65-5553 Fax: 0166-65-5626
旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行：平成 29 年 10 月 1 日



講習会のご案内

（お申込み・受付は前月の 20 日から）

「ビオラと秋植え球根の寄せ植え」

とき 平成 29 年 10 月 8 日（日）◎1000 円
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 緑のセンター相談員



「庭木の冬囲い」(実習)

とき 平成 29 年 10 月 15 日（日）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 緑のセンター所長



「雪吊りの基礎」(実習)

とき 平成 29 年 10 月 22 日（日）
午後 1：30～3：30 定員 20 名
講師 緑のセンター所長



「フドウと小果樹のせん定と栽培管理」

とき 平成 29 年 11 月 2 日（木）
午後 1：00～3：00 定員 50 名
講師 上川農業改良普及員センター
普及指導員 岸本結香さん



「押し花カレンダーを作ろう」◎1000 円

とき 平成 29 年 11 月 12 日（日）
午後 1：00～3：00 定員 20 名
講師 押し花サークルつくしんぼ代表 加藤迪子さん

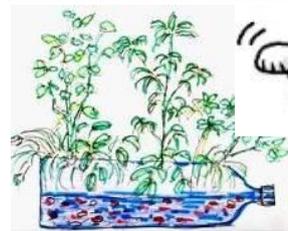


「木の实などを使った壁飾り」◎¥500

とき 平成 29 年 11 月 26 日（日）
午後 1：00～3：00 定員 10 名
講師 緑のセンター相談員

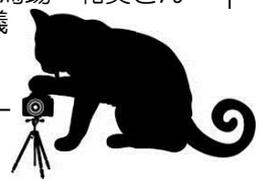


第 33 回「旭川市の公園絵画展」イオンモール旭川西
おしらせ 「ペットボトルの寄せ植え」無料体験講習会
日時：10 月 2 日（月）①9 時～②13 時～各先着 25 名様



いっしょに
つくりましょう

「秋の神楽岡公園で写真教室」（連続 3 回）
10 月 9（月祝）、15、29 日（日）
☆10 時～12 時午前中の講習会です
講師：道写協旭川支部長 馬場 和美さん
①写真の撮り方等の基本講義
②公園内の撮影会
③トリミング講習



展示会のご案内

（初日は午後から、最終日は 4 時まで）

「木の实・草の実写真展」10 月 7 日～22 日
「旭川市公園絵画展」10 月 31 日～11 月 5 日
「秋の神楽岡公園写真展」11 月 18 日～12 月 10 日



桜のトンネルプロジェクト ～サクラの植樹会～



10 月 21 日（土）10 時～12 時
募集数：団体 3 組、個人 20 名
参加料：無料（作業できる服装）
募集期間：10 月 5 日～20 日（金）
集合場所：神楽岡公園広場にて

【休館日のご案内】

4 月～10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。（祝日の場合は翌日）
11 月～3 月は毎週月曜日が休館日です。（ " ）

〈園芸の基礎知識〉 植物の種子の構造と働き

～ 3 種子の分類 ～

■品種の分類

野菜の品種を分類するにはまず「系統」という大まかな分類があり、その中に「品種」があります。品種の中に種苗会社などで育成された「園芸品種」があります。その中に固定品種のグループがあり、在来品種、伝統品種と、さらにエアールーム品種が含まれ、それ以外にF1品種(交配種)のグループがあり、最近多くの品種が育種されています。

品種の分類		
園芸品種	固定品種	在来品種
:	:	伝統品種
:	:	エアールーム品種
:	:	F1品種

■固定品種

日本の在来野菜に加え渡来野菜も各地の篤農家により栽培が工夫され、選抜の手が加えられてきました。興味深いのは日本の複雑な地形で微気象が異なったため、長年栽培されるうちに多様な変異が生じ、篤農家により選抜が加えられてきたことです。暖地では生育の早い早生の品種が選抜され、高冷地や北海道では生育の遅い晩生の品種が育成されました。明治以前の段階ではまだ選抜が中心で、品種は自然の受粉(オープンポリネーション)でできる固定品種でした。

最近よく見聞きするエアールーム種子は、ヨーロッパからアメリカ大陸に人々が移住した時に持ち込んだ野菜のタネを、当時の農法で有機的に栽培してきたものです。化成肥料を用いず従来の堆肥を使って栽培し、日本の伝統品種と同様に、自然の受粉によるタネを採種する点に限定しています。したがってエアールーム種子は伝統野菜とほぼ同じで、ただ栽培地が異なり、有機農法で栽培され維持されてきたタネを指します。ただ日本各地の気候にあうかは、十分に試験を試みる必要があります。

■F1品種

F1品種とは、異なる遺伝子をもつ両親を交雑(交配)させてできた第1代目の子どもを指します。雑種第1代、またはF1雑種ともいいます。両親系統がお互いに違った特性をもつもの同士を掛け合わせることで、異なる遺伝的的特性をもつ雑種ができます。すると「雑種強勢」が出て、両親より収量性、耐病性、早熟性などがよくなります。中には長く支持される品種も出ています。

(参考資料:タキイ種苗「はなとやさい 2017.06」、朝倉書店「園芸事典」)

緑の相談 Q&A(42)

庭にカンナを植えていましたが、花も終わって葉も傷んできたので掘り上げたのですが、保存方法がわかりませんので教えてください。



カンナは、カンナ科ダンドク属の熱帯アメリカ原産の非耐寒性の春植え球根(根茎)植物です。ハナカンナとも呼ばれ、花が大きく花色も多く、葉色も銅葉や斑入り葉など多彩です。カンナは強い霜などで球根が傷みますので、庭植えの場合は初霜の降りる前(気温約5℃)に花後の茎を半分切って掘り上げ、鉢に植え替え、鉢植えの場合は同じく花後の茎を半分切って、そのまま室内の涼しい場所(気温 10℃程度)に置きます。球根は乾燥に弱いので完全に乾かすと枯れますので、鉢土表面が乾いたら水やりして保存します。また、15℃以上温度のある居間などで水やりして育てながら冬越しさせても良いでしょう。この場合は照明などで新芽が伸びてきますので、水と薄めた液体肥料などを与えると花が咲く場合もあります。春になったら生育の良い株は2～3芽付けて株分けして鉢植えで育て、気温が高く安定してくる6月中旬頃に庭やプランターなどに植込みします。

(参考資料:北海道新聞社「北海道四季の園芸なんでも百科」、北海道新聞社「北海道四季の家庭園芸」ほか)

※ホームページ (<http://www.asahikawa-park.or.jp>) に「花と緑の相談コーナー(Q&A)」を掲載しています。こちらをご利用ください。

植物の病害虫

その39 「ゲンバймシ」



症状葉が白くなる

タール状の排せつ物

幼虫

1 発生しやすい植物

庭木などの樹木、アジサイ、アセビ、ウメ、カイドウ、コブシ、サクラ、サツキ、シャクナゲ、ツツジ、バラ、モクレンなど、果樹、ウメ、カキ、リンゴなど。

2 被害

成虫や幼虫が葉裏に寄生し、細長い口を葉の組織の中に刺し込んで汁を吸います。そのため、葉の葉緑素がなくなって白いかすり状の斑を生じます。多発すると、葉全体が白くなって枯れたり落ちたりし、株の生育が悪くなります。ハダニやスリップスの被害と似ていますが、葉裏にヤニ状の黒い排せつ物が多くつくことで区別がつかます。

3 発生生態

ゲンバймシは、庭木や果樹などの樹木や、草花などの葉を加害します。成虫は大部分の種類では体長が3mm～5mmで、平べったい体をしています。翅は半透明で淡黒褐色などの斑紋があります。名前は、翅を水平にたたんだ形が相撲の軍配に似ていることに由来します。成虫は組織の中などに卵を産みつけます。孵化した幼虫は淡褐色などの細い円柱状の紡錘形で多くの突起をもち、何回か脱皮して成虫になります。成虫は年に4～5回ほど発生します。主に成虫で冬を越します。ゲンバймシの仲間は、初夏から秋に向けて発生が目立ち、特に、この時期に高温で雨が少ない天気が続くと多発します。代表的な種類は、ツツジ、サツキ、シャクナゲなどに寄生するツツジゲンバイ、果樹や花木などに寄生するナシゲンバイ、キク科の草花などに寄生するアワダチソウゲンバイ、キクに寄生するキクゲンバイなどです。

4 防除法

早期の防除が大切です。葉に斑点が発生したら、成虫や幼虫を見つけて補殺します。周辺にある雑草は、草花につくゲンバймシの発生源になるので、早目に抜き取ります。摘要の薬剤がある植物で、薬剤を使う場合は、葉の表裏をときどき調べ、白い斑点や黒い排せつ物を見つけたら、早期に株元に粒剤を散布して土に混ぜるか、薬液を散布します。薬液は葉裏までかかるよう、ていねいに散布することが大切です。



グロキシニアを毎年楽しむ

イワタバコ科シンニギア属 ブラジル原産 春植え球根

別名 オオイワギリソウといい、セントポーリアの葉を大きくしたような厚みのある葉で、夏から秋にかけてビロードのような光沢のある大きく色鮮やかなラツパ状の花を咲かせます。花色は白・赤・ピンク・紫の単色や二色咲きがあり、咲き方も一重・八重があります。

●日常の手入れ

- ・直射日光に弱い。また、暗すぎると花が咲かないのでレースのカーテン越しの光が当たる窓辺が良い。
- ・水やりは鉢土の表面が乾いたら、花や葉にかからないように鉢の縁から水を注ぎ、鉢底から流れ出るまで与える。(基本的に高温多湿を好むので、ときどき霧吹きで葉水を与えるのも有効。)
- ・肥料は生育期(5月～9月)に、月に2回程度 1,000 倍に薄めた液体肥料を与える。
- ・花がらをそのままにしていると病気を呼ぶので、花が枯れてきたら付け根から花がらを摘み取る。

●花が終わったら

- ・気温が 15℃を切ると成長が止まり、やがて地上部が枯れて休眠に入るので、冬は水やりを中止して、凍らない程度の部屋で休眠させる。(休眠に入った球根はそのままにしておいても良いし、掘りあげてオガクズなどの中で乾燥させないように保存する)。
- ・4月になったら赤玉土6、腐葉土3、火山レキ1の用土に球根が隠れる程度にして植えかえる。

●ふやし方

6～7月頃に中くらいの大きさの葉を株の付け根から(葉柄を付けたまま)切り取り、赤玉土(小粒)などに挿す。乾かさないように管理すると、1ヶ月くらいで切り口から発根して球根が着くので、その後、一般栽培どおりに育てる。



展示室の植物 (75)

モンステラ (別名 鳳来蕉(ほうらいしょう))

学名: *Monstera deliciosa* サトイモ科アルム属



身近な観葉植物として飾っているモンステラですが、原産地は中央アメリカ、メキシコで、20 種類とも 40 種類ともいわれるほどいろいろな種類があるそうです。中でも、葉が大きいタイプの「デリシオーサ」は食べることができる実をつけることから「美味しいモンスター」と呼ばれています。

緑のセンターの温室で育てている「デリシオーサ」は、8月4日に白い仏炎苞を背にした棒状の花(肉穂花序)を咲かせました。これが熟すと「幻の果実」とも呼ばれる果実になります。そのトウキビに似た実を見ただけでは、どう食べてよいのか、食べごろがいつなのか見当がつかないかもしれませんが、ちょっとしたコツがあるようです。果たして、幻の果実の味は ???